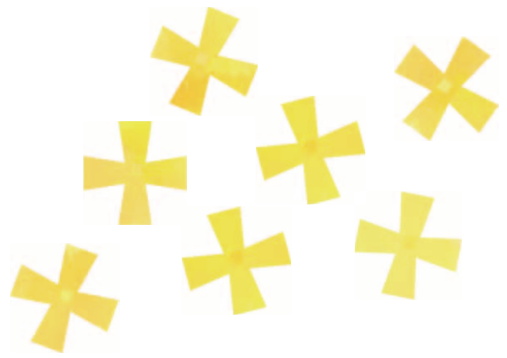


菜の花

NHO IBUSUKI MEDICAL CENTER



No. 59
令和6年9月

菜の花



ひまわり



四季折々の様々な風景が人々を誘う

椿



コスモス



当院のロゴマークは、指宿市が誇る「菜の花」をモチーフにしています。



たくさんの黄色い円は花の部分を表しており、菜の花は小さな花が集まって1つの花を形成しているというように、病院のスタッフ1人ひとりが集まって、病院という組織があるのだということを表現しています。

緑の弧は菜の花の葉と、病院（花の部分）には新しい風が常に舞い込み、また病院が地域に新しい風を送り出しているという「風」のイメージを示しています。

contents

- P.2 医療現場における癒し憩い
- P.3-4 職員合同宿泊研修会
- P.5 指宿南九州消防組合との事後検証会
- P.6 もの忘れ外来
- P.7 小児外科外来
- P.8 連携先医療機関紹介 福元医院
- P.9 指宿 菜の花通信
- P.10 外来診療担当医一覧

理念

患者さまにやさしく、
地域に信頼される
良質な医療の提供をめざします。

運営方針

- 1 がん診療の治療の向上をめざします。
- 2 成育医療の充実をめざします。
- 3 救急医療の充実をめざします。
- 4 地域医療機関との連携を図り、説明と同意に基づいた安全で質の高い医療をめざします。



医療現場における癒し憩い



院長
鹿島 克郎

今年6月28日、29日、第4回職員合同宿泊研修を行いました。

テーマは「医療現場における癒し憩い」で講師に九州がんセンター名誉院長の牛尾恭輔先生をお迎えし、2日間で総勢62名の参加者でした。

牛尾先生はNPO法人「癒し憩いネットワーク」の理事長をされており、自然の美しい写真に人生の喜怒哀楽を表現した文章を添えた画像データベースを構築され、我が国のみならず、世界に貢献する「癒し憩い画像データベース」を目指しておられます。

私たちはライフレビュー（Life Review）により、病める人の精神に安らぎを与え、心を癒すことができます。その人が歩んできた人生を聴きながら共に回想する場合、幼少時の写真、父母や家族との懐かしい写真、親しい人達との旅行写真などを見ながら話し合うと、心身の痛みや悩みが軽減されます。「癒し憩い画像データベース」の静止画や動画を活用することで療養中の患者さんやご家族、さらには医療従事者のQOL（人生の質）の改善に繋がる可能性があります。

研修会では牛尾先生が一行四窓（4枚の写真に一行の文章を添える）を具体的に説明され、写真（風景、植物等）の配置、日本的な特徴（濁音、余韻、あいまいさ、吸気後の間）や和の心、ゆとりなどが言葉と画像の共生を生むことを学びました。

今回の広報誌の表紙には研修会で最優秀賞を獲得した一行四窓を採用しました。

この学びを当院で生かす為、外来待合室や病棟に写真集を配備し、患者さんやご家族が自由に閲覧できるようにしました。また、リハビリ室では画像集をTVで見ながらリハビリできるようになり、各病棟では画像データベース（無料）をiPadで閲覧ができるように準備中です。牛尾先生が構築された「癒し憩い画像データベース」が多くの医療機関で活用されることを願ってやみません。

職員合同宿泊研修会



第4回職員宿泊研修に参加して

教育担当師長 丸目 芳美

当日は梅雨時期の大雨の影響で交通機関が不安定となりJR指宿枕崎線は運休。講師の牛尾先生が福岡からお越し頂けるか心配しながらの準備でした。牛尾先生にも無事にお越し頂き、雨の中行われた研修は山の上にある霧に覆われた雲の中のような場所でした。講演は「医療現場における癒し憩い」をテーマに牛尾先生の経験や画像を用いた回想法などについて講義頂きました。牛尾先生の話からは亡くなられた奥様を大切に思い続けられている事が各所で伝わり、大切な人を思う気持ちや、過ごした時を思い返すことが癒し憩いにつながり、その手掛かりが今回紹介頂いた素敵な日本の風景や文化、言葉の中にあると思いました。グループワークでは「患者さんの癒し憩いの為にできる事」について多職種で考えましたが、当院には患者さんの事を思う素敵な職員がたくさんいる事、また当院の魅力を再発見出来ました。今回学び考えた事を患者さん家族へ繋いでいける様に職員で協力し取り組んで行きたいと思います。



第4回職員宿泊研修に参加して

放射線科 副診療放射線技師長 小園 二忠

6月28・29日に開催された職員合同宿泊研修会に参加させていただきました。講師として来ていただいたのは九州がんセンターの院長、名誉院長などを歴任された牛尾恭輔先生で、現在はNPO法人「癒し憩いネットワーク」の理事長としてご活躍されている方です。先生はこれまでの経験から、患者さん本人だけではなく、その家族や周りの方々の「生き方の質」＝Quality of Life (QOL) を向上させるために、画像による癒し・憩いの医療を実践されており、大変共感もてる講義内容でした。さらに先生がネットワークにアップしている画像・動画は無料で使用していいとのこと、当院の患者待合室などに有効に使えないかなど、話が盛り上がりました。またグループワークでは、普段あまり接する機会が少ない他職種の方々と接することができ、それぞれの視点から意見を聞いたときに、まだ自分が患者さんや病院のためにできることがあるのではないかと考えさせられ、今回の研修を今後に生かしていきたいと思いました。



指宿に馴染みたい

リハビリテーション科 言語聴覚士 米森 晴基

今年4月に異動してきたばかりの私は、「早く指宿医療センターに馴染みたい」と思い応募用紙にすぐに名前を書き参加しました。2日間の研修は、とても有意義な時間だったと思います。講師の牛尾先生の講義では、かつての上司の言葉を思い出しました。緩和ケア病棟の患者様にかかわる際に「人の生きざまは、死にまで決まる。この患者様の人生の終わりに、この人の価値観と家族の希望と病院の戦力で何が出来るか考えよう。」と言われました。それ以降は、緩和ケアの患者様でなくても、時々この言葉を思い出しながらリハビリ業務に取り組んできました。私自身は言語聴覚士になって日は浅く「できないこと・わからないこと」も多いですが、今回の研修が私の「臨床の引き出しの1つ」となる様、業務に取り組んでいきたいです。また、食事やグループワークでは色々な職種の方々とお話する機会がありました。後日、病院内でも声をかけていただき異動後の不安が少し和らいだように感じます。来年度は新しく来られた方に積極的に話してみたいと思います。企画・運営をしていた方々も本当にありがとうございました。



職員合同宿泊研修会に参加して

HCU 副看護師長 白澤 昂平

宿泊研修には毎回参加しています。今回は「医療現場における癒し憩い」のテーマについて多職種とともにグループワークを行いました。私にとって指宿は育ちの場でもあり、顔見知りの患者様や同じ地元の患者様もよく来られます。表情の硬い患者様が地元のことや共通の話題で盛り上がり、その後の療養生活でも笑顔が見られ会うたびに会話が盛り上がったり、患者様の人生観や生活状況などの情報を得て、その後の看護につながる経験をしたことがあります。また、職員でも今まで関わりが少なかったが、共通のきっかけにより関係が良くなったことがあります。その為には、相手より情報を引き出すことと、関係構築が重要だと思います。写真も手段の一つとして活用していき、今後自分たちに何ができるかを考えていきたいと思っています。あいにくの雨でしたがベイヒルズからの景色はよく、お酒を飲みながらの意見交換会も楽しかったです。来年も参加したいと思っています。



職員合同宿泊研修会に参加して

4病棟 看護師 森山 明日香

今回の職員合同宿泊研修は、写真や動画を通して自身の人生の振り返る機会になりました。病院には認知症や加齢による認知機能の低下、自宅以外の場所で過ごすことが多くなった患者さんと多く関わる機会があります。写真や動画で視覚や聴覚的視点から患者さんがこれまでの人生を振り返ったり、これからの希望を見いだすきっかけになると感じました。人生を振り返る中で、わたしは事柄だけでなくそのときの心情も同時に思い出しました。病院生活は外での生活に比べ、病状により閉鎖的空間になりがちです。その中でも患者さんが自分らしく生活できるように物理的環境だけでなく、心情にも働きかけることが大切であると感じました。また、研修2日目には他職種と話をする機会もあり、改めて病院は様々な職種により成り立っていることを実感することができました。看護師だけでなく、他スタッフとも協力し指宿の医療を支えていきたいと感じました。



職員合同宿泊研修会を通して

算定・病歴係 深水 ひかる

今回の研修では、「医療現場における癒し憩い」について多職種で意見交換を行いました。講義を通して、写真や言葉をきっかけにコミュニケーションを図り、患者さんに寄り添った癒し憩いの場を医療現場において提供できるのではないかと考えました。事務部でも写真や動画を活用した癒し憩いの場を設置できるようなアイデアを検討していきたいです。また、患者さんにそのような場を提供するうえでも、職員間でのコミュニケーションが重要であると改めて考える機会にもなりました。1日目の意見交換会や2日目のグループワーク等を通じて、普段の業務ではかかわることの少ない職員同士で交流し意見を共有することができ、大変有意義な時間を過ごせたと思います。今回の研修で学んだことを日々の業務に活かし取り組んでいきたいです。



R6年度 第1回 指宿南九州消防組合との事後検証会



経営企画係長 橋口 聡史

当院では、地域の救急隊員の技術向上のため、年に2回、指宿南九州消防組合との間で救急搬送症例の事後検証会を実施しております。

本年度初めての検証会を9月6日(金)に当院地域医療研修センターにて開催いたしました。

今回は、救急隊員より「バイスタンダーによりROSCした症例」、「漁港内での中毒症例」に関する検討事案の発表と、当院院長より院外心停止に関する救命率向上についてというタイトルで発表、問題提起が行われ、それに対して当院の医師や消防組合の方々が意見や助言を行う形式で進められました。

台風の影響で延期になるなどアクシデントがあった中、多くの方にご参加いただきました。

様々な観点から情報交換を行うことができ、双方にとって収穫の多い検証会となりました。



故神経内科部長新山尚仁先生と前病院長田中先生の御厚意により平成25年よりもの忘れ外来を開設し、現在は第2・4水曜日午後に診療を行っています。

認知症は脳の細胞の老化・変性などの変化により記憶力低下等を生じ、日常生活が困難になります。そのため早期発見・早期治療が大切で、当科では病歴、認知機能検査、頭部画像検査等を実施し、認知機能低下を引き起こす治療可能な病態（正常圧水頭症、慢性硬膜下血腫、症候性てんかん等）を鑑別するとともに、できるだけしっかりした病型診断（アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、脳血管性認知症、前頭側頭葉変性症）を行い、治療方針を決定しています。実際にいままでに6例の正常圧水頭症、2例の慢性硬膜下血腫、2例の症候性てんかんを診断しています。

認知症の治療は大きく非薬物治療と薬物治療に分けられ、私心としては非薬物治療が重要と考え診療を行っています。

非薬物療法はまず家族・介護者に対し認知症患者さんの気持ちを気遣っていただくことを第一に説明します。認知症は患者さんと介護者達との認識のズレが生じることで起こるコミュニケーション障害によって対人関係性が崩壊していろいろな問題言動・行動が出現してしまいます。当然患者さんが周囲の人々との間に認識のズレがあることを理解することはできませんので、周囲の方がそのズレがあることをしっかり認識した上で上手に患者さんを温かく生活支援していただくように指導しています。一度の説明ではうまくいかないことが多いので診察時に家族らから生活支援で困っている問題点を聞き取り、一緒に生活支援の改善策を模索していきます。



薬物療法は従来の経口抗認知症薬を病型診断に沿って選択していきますが、まずは一剤を使用して効果を判定し、効果に乏しい場合は他剤に変更しながら最も効果のある薬剤を選択していきます。

最近話題の点滴治療薬「レケンビ®」ですが、適応が「アルツハイマー病による軽度認知障害および軽度の認知症の進行抑制」ですので、中等度以上の認知症進行例や頭蓋内器質性変化が目立つ例は適応外です。本人ならびに家族等にその点を説明し御理解いただくようにしています。そして、適応と判断する症例ならびにどうしても治療を希望される場合は鹿児島大学病院の認知症疾患医療センターへ紹介します。

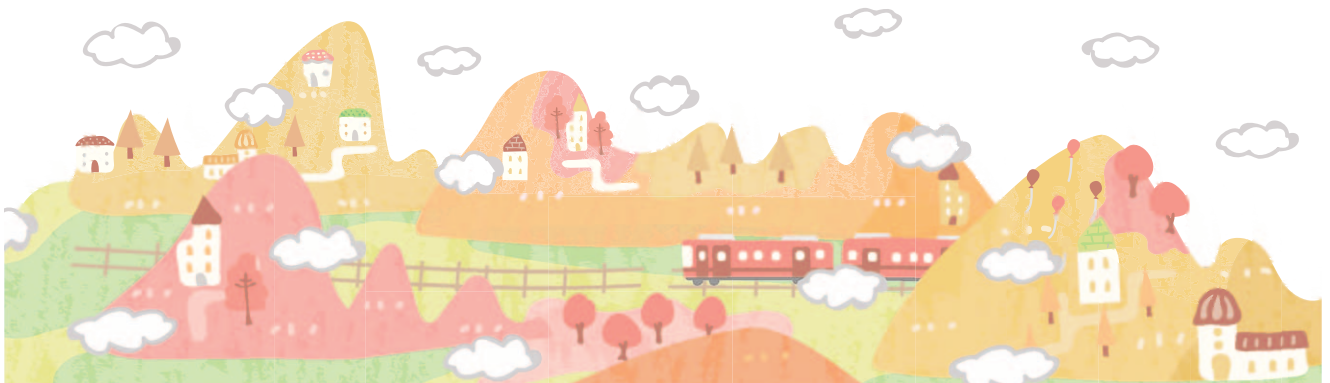
先生方が診療されている認知症患者さんの中でお困りの症例がございましたら御紹介いただけましたら幸いです。できるだけしっかりした病型診断を行い、家族等への病態説明ならびに治療方針を検討した上で先生方へお返しいたします。

当院で月2回小児外科外来を担当させていただいています。小児外科とは16歳までの子ども達の呼吸器、消化器、泌尿器の病気で、なかでも手術を必要とする疾患を扱う診療科です。実際の診療では、鼠径ヘルニア(脱腸)、臍ヘルニア、停留精巣、頸部腫瘍などの疾患が多いのですが、今回は子どもによくある腹痛と便秘を話題にします。

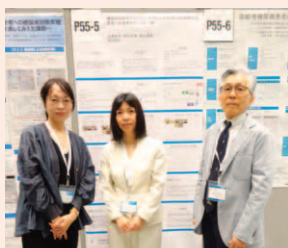
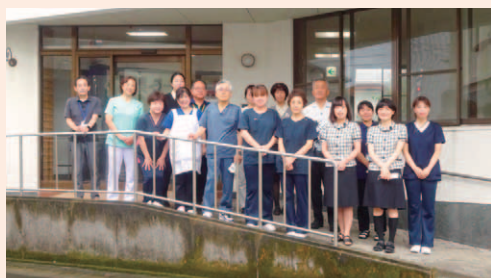
小児の便秘ですが、まずは直腸肛門の先天的な異常がないことを確認しないといけないので、小児外科が関わっています。外科的疾患がなければ、習慣性の便秘となります。3, 4歳に多いのですが、その原因は実は心理的で、1, 2歳の頃に固いうんちで痛みや出血を伴いますと、排便は不快なことと刷り込まれ、我慢してしまい、そのうち便意は消えます。その繰り返しで慢性便秘となるわけです。治療は食事指導と適切な薬の使用です。宿便になっている場合には一度完全に排便した上で、薬で軟便状態にし、「排便は苦痛である」というトラウマを払拭し、繊維の多い食事と適切な治療薬の選択で個々の患児に合わせた対応をしています。

次に、腹痛です。小学生高学年から中学生に多く、コロナ禍で増えたのですが、その後も続いている印象です。まずは外科的疾患としての虫垂炎を鑑別し、除外しますと、胃腸の動きをつかさどる自律神経の乱れによる機能性胃腸症と呼ぶべき自律神経失調症によることが多いようです。これは友人関係や家庭環境のストレスによっておこる腹痛や不快感なのです。朝に腹痛があると不登校につながります。小児外科医としましては、上部消化管造影や超音波エコーにより臓器に異常がないかを見極めた上で、機能性胃腸症となれば学校・家庭生活について話あうとともに症状を和らげるために薬を処方するかどうかを考えます。ここでは紙面の関係上詳細は省きますが、小児科医にも協力いただき、本人やご両親と心理的な問題について十分に話合うことが重要です。

今後とも、クリニックや病院と密接な関係を保ち、当院小児科医とチームを組んで患児や親御さんたちをサポートできるように努めますのでご相談ください。また、緊急手術が必要な患者さんにつきましては専門的な判断により遅滞なく鹿児島大学へ紹介します。外来診療時間は第1, 3火曜日、午前・午後(9:30~3:00)となりますが、セカンドオピニオンを含め気軽にご連絡、ご紹介ください。



医療法人柏木会 福元医院



2024年JDS総会 東京国際フォーラムにて

医師 院長 福元 良英
柚木孝一郎（整形外科）

診療科目 内科、糖尿病内科、内分泌内科
小児科、整形外科

診療時間		月	火	水	木	金	土	日・祝
午前	8:30 ~ 12:00	●	●	●	●	●	●	/
午後	16:00 ~ 18:00	●		●	●	●	●	/
午後	17:00 ~ 18:00		●					

予約可です。

火曜日・金曜日は整形外科（柚木孝一郎先生）があります。

1984年1月に父より診療所を引き継いでから来年で40年になります。引き継ぎ時、煮沸したガラスシリンジ・注射針を使用していたため毎日受診されていた患者さんが2人おられました。今とは隔世の感です。糖尿病は自己管理の疾患であるので1984年2月より初診時糖尿病教室を開始し形態を変えながらも現在まで継続しています。

当時より糖尿病診療は「地域でのゾーンディフェンスで」との思いが強く、地域の眼科・外科・脳外科・整形外科・腎臓内科・歯科の先生方に大変お世話になり、またご迷惑もお掛けしてきた40年です（現在進行形）。地域の先生方に御礼申し上げます。その中で指宿医療センターとの連携は当院の診療にとり命綱的な存在となっています。

田中康博前院長が指宿に来られた時に「循環器疾患の患者と一緒に診ましょう」という有り難いお言葉を頂き、その後、遠慮なく循環器科へ併診をお願いしています。

現在も鹿島克郎院長はじめ循環器科の先生方に心血管発症リスクの高い患者さんを併診して頂いています。またACSにも速やかに対応頂き感謝しています。その結果、鹿児島市内の循環器科へ救急車に同乗し搬送することはほぼ皆無になりました。

田中院長時代に産科が存続の危機に瀕した際は「指宿を産声が聞けない町にしてはならない」・「里帰り出産の出来ない町にしてはならない」ということで当時、医師会長の職にあった私も田中先生と一緒に行政に掛け合ったことを懐かしく思い出されます。

全くの私事で恐縮ですが、その後、医療センターで2人の孫が産声を上げることができました。

産科には妊娠糖尿病の血糖管理をご依頼頂くことがあります。ご紹介頂いた症例で今年5月の糖尿病学会総会において「健康自己管理アプリ（シンクヘルス）を利用した妊娠糖尿病患者への食事サポートの一例」という演題で当院管理栄養士の白澤が発表する機会を得ました。

糖尿病症例に多いMASHや脾癌等を消化器内科・肝臓内科・消化器外科にお願いしています。もちろん眼科には網膜症・白内障を治療して頂いております。また糖尿病性自律神経障害チエツクのため残尿をルーチンに測定しており異常所見者は泌尿器科に精査をお願いしています。

窓口である地域連携室のスタッフの皆様には、いつも丁寧なご対応を頂き有り難うございます。

最後に、これからも指宿医療センターが地域医療のハブとして機能するようお願い致します。



田舎医者流儀 (235)・・・「続・田舎医者流儀」が出来たよ



かねてより準備してきた自家出版本「続・田舎医者流儀」が出来上がり7月26日納本されてきた。原稿は相変わらず、指宿医療センターのホームページに月2回位菜の花通信-田舎医者流儀を書き続けていたのでそれを当てることにした。この3年ほどで138本になっていた、それを全部本にすると大部になるので、半分ぐらい72本を選んだ。原稿選別は私の頼りにしている腕利きの編集人有川さんと大迫さんにお任せした。巻末には前回と同様に家人の撮りためた山の花を載せた。高山の花という事でまとめてある。最近はそのような高山にのぼる事は少ないので若かりし頃登った山と花の写真のようだ。

鹿児島医療センター田中院長に「発刊に寄せて」と前文を頂いた。「遺伝子レベルの話から政治、経済、医療、環境問題、スポーツ、草花、人間観察など幅広く、先生の豊富な知識や鋭い視点、高角レンズ的視点、寛容力、人間力感じさせる著作である」との言葉を頂いた。過分な誉め言葉であるが、80歳の老人は未だ世の中に様々に興味を持ち続けている。

昨年、メイ・サートン著「終盤戦 79歳の日記」という本を読んだ。著者メイ・サートンは「前々から、80歳の誕生日に、生まれて79年目の一年間の日記を出したいという思いがあった。日々の喜びやふりかかってくるさまざまな問題、老年になって未知の労苦や驚きへと開かれるいくつもの扉について、静かに淡々と綴る、そんな日記を書いて出版したいと思っていた」という。それを読んで、80になった私もいささか刺激を受け、続「田舎医者流儀」を出そうかと考えた。

表紙は坊津の灯台、裏表紙は開聞岳の写真（いずれも家人の撮ったもの）で、200ページ位の本で手にし易い仕上がりになっている、出来栄は気に入っている。改めて編集人の有川さん、大迫さんのレベルの高さに感謝している。今回500部ほど印刷に400部近くは友人・知人にお送りした。多くの方から、これから読むからねとか読んでよとメールやはがき・手紙を頂いた。

多くの方とこれを通じて交流が出来たことが嬉しい。同級生のK君は今も毎日診療し、週1は手術もしているという。ゴルフも上手でクラブチャンピオンになったこともあるが、当然のごとくエイジシュートもしたという。そんな近況が聞けるとこちらも元気を頂いた気分だ。一方、この年になったから訃報に接することも多くなった。先日一年先輩の医師が突然亡くなった、体調不良とは聞いていなかったのが起こったのだろうと気になるが、詳しいことは判らない。この酷暑の中相変わらず、週一はゴルフに行っている、あの世に行ったら出来ないのでやれる時やろうと思っている。

指宿医療センターHP菜の花通信

<https://ibusuki.hosp.go.jp/topic/nanohana-tweet/>



外来診療担当医一覧

令和6年9月1日現在

診療科等		月	火	水	木	金	備 考
循環器内科	午前	鹿 島	吉 重	鹿 島 園	大 川 井 畑	鹿 吉 島 重	
総合診療内科	午前	大 井 花田(血液内科)	花 田	中 村	花 田	中 村	
消化器内科	午前	羽 田	(休 診)	門 松	灰 床	羽 田	
肝臓内科	午前		大 重		大 重		
小 児 科	午前	荒 武	田 邊	田 邊	関	田 邊	午前診療：8時30分～11時 午後診療：14時～16時 予防接種 (毎週月曜・火曜・木曜) 受付14時(要予約) 一ヶ月検診 (月・木) 受付13時(要予約) 3～4・7～8・9～11ヶ月・1歳児健診(火曜) 受付13時45分(要予約)
	午後	外来	荒 武	関	荒 武	関	
		予防接種 健診	田 邊	関	田 邊	関	
外 科	午前	(手術日)	宮 蘭 迫 大	宮 蘭 迫 大	(手術日)	(手術日)	
泌尿器科	午前	栞 木	(手術日)	栞 木	栞 木 (再診のみ)	栞 木	
腎臓内科	午前	尾 田				外部医師 (不定期)	17番診察室にて診察します。 10:00～(要予約) ※金曜は不定期(月2回)のみ
産 婦 人 科	午前	古 謝 竹 歳	甲 斐 竹 歳	(手術日)	古 謝 甲 斐	古 謝 甲 斐・竹 歳	1ヶ月健診 (月・木曜日:要予約) 2週間健診 (月・火・木・金:要予約) 午後診療受付 (水・金曜日以外) 13時30分～15時(再診のみ) 母乳外来 (毎週火・木曜日) 母親学級 (毎月第2・3水曜日) 金曜の診療については、奇数週は竹歳、偶数週は甲斐が診療を行います。
	午後	古 謝 竹 歳	甲 斐 竹 歳 助産師 母乳外来	助産師 母親学級	古 謝 甲 斐 助産師 母乳外来	(手術日)	
眼 科	午前	尾 辻 大 川	尾 辻 大 川	尾 辻 大 川	尾 辻 大 川	尾 辻 大 川	月曜・火曜・水曜は午後から手術のため受付は午前10時までとなります。
	午後	(手術日)	(手術日)	(手術日)	(特殊外来)	(特殊外来)	木曜・金曜の午後は特殊外来(視野検査、レーザー治療、造影検査、硝子体注射など)
専門外来	午前	呼吸器内科	小児外科		脳神経外科		呼吸器内科 毎週月曜日 予約制 呼吸器外科 毎月第2・4水曜日 (14時～16時) 予約制 小児循環器 毎週月・木曜日 (14時・15時・16時) 要予約 ※毎週火は16時のみ要予約
	午後	呼吸器内科 小児循環器	小児外科 小児循環器	もの忘れ 外来	小児循環器 呼吸器外科 脳神経外科		小児外科 毎月第1・3火曜日 (9時45分～14時30分) 要予約 もの忘れ外来 第2・第4水曜日 (14時～16時) 要予約 脳神経外科 毎週木曜日 (9時～16時)
内 視 鏡 検 査		灰 床 門 松	羽 田 灰 門 松	羽 田 灰 床	羽 藤 田 井	赤 崎 灰 門 床 松	第2・第4木曜日 藤井
整形外科	午前			織 田		織 田	水曜日・金曜日 9時～17時 受付:(織田先生) 9時～11時・14時～15時30分 鹿大医師(水)・(金) 午後 受付:13時～15時00分
	午後			織田・鹿大医師		織田・鹿大医師	



JRの場合

JR指宿枕崎線に乗車頂き、指宿駅で下車して下さい。
指宿駅から山川行バス(鹿児島交通)にて「指宿医療センター前バス停」(約10分)で下車して下さい。
当院の正面玄関前に停車します。

バスの場合

JR鹿児島中央駅前(鹿児島市)から山川棧橋行バス(鹿児島交通)にて「指宿医療センター前バス停」で下車して下さい。
当院の正面玄関前に停車します。

自動車の場合

鹿児島市からは、産業道路を進んで国道226号線を山川方面へ進んで下さい。
指宿医療センターは国道沿いにあります。

- 受付時間 午前8時20分～午前11時00分
- 診療時間 午前8時30分～午後17時15分
- 休診日 土・日・祝祭日・年末年始 ※急患の方は随時受付いたします。
- 電話番号 0993-22-2231

発 行：独立行政法人国立病院機構 指宿医療センター
〒891-0498 鹿児島県指宿市十二町4145番地
T E L：0993-22-2231 (代表)
F A X：0993-22-2772 (地域医療連携室)
U R L：https://ibusuki.hosp.go.jp
印 刷：株式会社陽文社